

皆様、おはようございます。

見事に晴天の続く連休を過ごしました。久しぶりのご家族とのひと時を過ごした方もおられると思います。初々しい若葉もすっかり濃くなりました。田植えの季節、お忙しくしておられる方もあると思います。昼はもうすっかり夏のような暑さがあります。熱中症にもお気を付け頂きたいと思います。

さて先週は、再びの大漁の奇跡のお話でした。

イエス様は、遠くから一晩中弟子たちの空っぽの舟を見守っておられました。そして「子たちよ、食べる物が無いようだね」と語りかけて下さいました。しかしほんの90メートル先にそんなにも私たちのことを見て、知って分かっている下さる主がおられるとは分からない、それが主だとは分からない、それが私たち人間という存在です。

主がひとたび「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう」と語られれば、どんなに一晩中不漁であったとしても、たちどころに魚が導かれ、弟子たちはずしりと重い手ごたえを網に感じ、「あの方は主です」とついに分かるのです。そのように主は私たちの人生の中に語り掛け、特別な神様のお言葉を語りかけられ、ひとたび私たちがそのお言葉に従えば、そこに神様のお働きを見ることが出来るのです。

空っぽの舟。自らの手立てに失敗し、失意の中、生活の必要にも事欠き、不安と悲しみの付きまとう空虚な朝。しかしそこに主はずっと弟子たちに付き添っていて下さったのです。その主の真実に触れ、衣をまとって湖に飛び込み、主のもとへと全速力で泳いでいくペテロの姿がありました。

そして心の底から弟子たちを温める炭火と、魚とパンとの食事を見て、弟子たちはもうあなたは誰ですかと尋ねる者はいませんでした。主が伴っていて下さる。非を起こして糧を用意して、疲れ切った弟子たちをわが子よと言って迎えて下さる、そういう我が家のあたたかさ、保護者の愛。あなた方の取った魚も持ってきなさいと、よくやったねと褒めていただき、共に成果を寄せ合って、力を合わせて生きていける喜び、主の家族の一員とされていることの喜び、そういう充足感に満たされながら、弟子たちはイエス様と朝食を共にしました。

15 彼らが食事をすませると、イエスはシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」。ペテロは言った、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがお存じです」。イエスは彼に「わたしの小羊を養いなさい」と言われた。

食事の後、藪から棒にイエス様がペテロに尋ねているように思われる会話が始まりました。「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」
イエス様は、どうして他の弟子たちに勝ってわたしを愛するかなどという聞き方をされた

のでしょうか。

マタイ 26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊の群れは散らされるであろう』と、書いてあるからである。

26:32 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。

26:33 するとペテロはイエスに答えて言った、「たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」。

26:34 イエスは言われた、「よくあなたに言うておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないというだろう」。

26:35 ペテロは言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。弟子たちもみな同じように言った。

ルカ 22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

22:33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

22:34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

ペテロは、「たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」と語りました。それほどに、彼は自分だけは絶対、どんなことがあっても、誰よりも主に従いつくすと語っていましたが、彼もまた主を否んでしまいました。

ペテロは、「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。」とあります、信仰のテストに失敗してしまい、もみ殻のように振り分けられてしまいましたが、「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」との御言葉に支えられ、その後立ち上がる事が出来ました。

ふるいにかけられ、実りあるものとして踏みとどまる事が出来ず、失敗をして、不資格だとの烙印を押されたような弟子たちにも、まだ「信仰の無くならない」道が残されていた、信仰者として赦されて歩き続ける道があり、立ち直り、互いに助け合い、力づけ合う生き方が用意されているという事はなんとという幸いなののでしょうか。

イエス様はペテロの、「たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」との勇ましさを思い出され、今もそのような気持ちでいるかと、決して皮肉ではなくて、ペテロらしさは健在かと、そのようにお聞きくださったのではないのでしょうか。

ペテロは言った、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです」。

これに対するペテロの答えですが、どこか意味深長な感じがします。

「主よ、そうです」という言葉は、心から、本当に、確信を込めてという意味ですが、その後、「わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです」という回りくどい言い方をするという事は、また直言しても、自分自身の行動でそれを否定してしまうかもしれないという、彼の心の疼きと言いますか、真新しい心の傷があってそのような表現になってしまったのでしょうか。

ちなみに、イエス様が「わたしを愛するか」と尋ねられた時の愛するかという言葉は、アガペーという言葉が用いられています。この言葉は、あなたの愛を見せて、証明してくれるだろうかという意味があるようです。イエス様をこそ心を込めて待ち望み、イエス様を強く求め、イエス様のことを第一に思う。そういう力強い愛を持っており、それを見せてくれるだろうかと尋ねておられますが、実はペテロはその応答として、「私がおあなたを愛することは…」のこの愛との言葉に、イエス様が問われたこのアガペーという同じ言葉で答えることをせずに、フィレオーという言葉で答えています。この言葉にも、愛する、深い感情を持つ、喜んで何々をするという言葉の意味がありますが、言葉の意味の違いをあまり詮索したとしてもどちらの「愛」がより強い愛の気持ちを指し示しているのかは実際のところはっきりしていないのだそうですが、もしそうであれば、どうしてペテロはイエス様がおっしゃったのと同じ言葉で答えなかったのだろうかという疑問が残ります。「わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです」という話し方と合わせて考える時、やはり彼はどこかに、自分がまた立派なことを言ってもまた言ったとおりに出来ないかもしれないという負い目のようなものがあつたのだろうかあと考えます。

イエスは彼に「わたしの小羊を養いなさい」と言われた。

小羊と主が語られているのは3回の質問のうちの、この個所だけです。

聖書はイエス様ご自身を「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ 1:29)と紹介し、宥めの供え物としての神の御子を指して言い、また同時にご自身を羊飼いにたとえて話をされる所も多くあります。

ヨハネ 10:11 わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。

10:12 羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る。そして、おおかみは羊を奪い、また追い散らす。

10:13 彼は雇人であって、羊のことを心に掛けていないからである。

10:14 わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。

ルカ 15:4 「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

15:5 そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、

15:6 家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と言うであろう。

15:7 よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。

このように、イエス様はご自身を贖いの代価として捧げてご自分の失われた羊を救い出してくださいました。そのようにして、必死のために命を捨てる良い羊飼いでいらっしゃる。そのイエス様が、ご自身の羊の世話をペテロに託すのです。

あてどもなく彷徨う、主の探し求められる一匹の羊。その一匹の羊を見つけるまでは捜し歩くという、主はどれほどの愛情をその羊に対して持つておられることでしょうか。その主の大切な羊を飼いなさい、世話をしなさいと主は語られました。

ここで同じやり取りがもう二回繰り返されます。そして3度目には、イエス様はアガペーの愛でわたしを愛するかとおっしゃらずに、ペテロがずっと答え続けていた、フィレオーの愛でわたしを愛するかと言い換えて下さいました。

ペテロは何度も何度も同じことを尋ねられ、その答えが信用されていないのか、不十分なのかと思って心を痛め、悲しみました。しかし彼には気付くべきことがありました。イエス様は、彼の答えに合わせて、フィレオーの愛でわたしを愛するかと問うて下さいました。彼流の愛し方にイエス様は合わせて下さったのです。

それにしても、どうしてイエス様は3度までペテロに語り掛けたのでしょうか。一度目、イエス様はアガペーの愛でわたしを愛するかとお尋ねになれましたが、ペテロはフィレオーの愛で愛しますと答えました。イエス様はおやと思われ、もう一度、ご自身が最初に問われた通りの聞き方をなさいましたが、ペテロはそれに気づいたのか気付かないのか、またはイエス様の語り掛けと違う言葉で答えてしまいます。そしてイエス様は3度目には、ペテロの答えたのと同じ言葉に合わせてフィレオーで尋ねて下さり、ペテロもまたフィレオーで答えました。これでようやく息の合った会話が成り立ちました。

イエス様は語られます。

18 よくよくあなたに言うておく。あなたが若かった時には、自分で帯をしめて、思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとってからは、自分の手をのぼすことになる。そして、ほかの人があなたに帯を結びつけ、行きたくない所へ連れて行くであろう」

今までは自分の思い通りにすることが出来た。しかしこれからはそうではなくなるだろう。自分で着物の帯を締めて、どこでも思いのままに歩いていたが、これから先、手を伸ばして、他の人が帯を締め、生きたくないところに連れて行くだろう。これは、誰かが服を着せてくれて、お抱え自動車のように連れて行ってくれるというものではなくて、逮捕されて縛られて連行されるという事を意味します。

19 これは、ペテロがどんな死に方で、神の栄光をあらわすかを示すために、お話しになったのである。こう話してから、「わたしに従ってきなさい」と言われた。

マタイ 20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

主は仕え、自分の命を与えて私たちの命を贖って下さいました。そのようにしてご自分の群れを養って下さいました。その道に進むという事は、どういうことなのか、主はお優しさと配慮をもって、その道の厳しさに耐えることが出来るようにと、繰り返し、彼の歩調に合わせて、理解に合わせて、実を低くして、彼の彼なりの愛の表現を受け止めて下さいました。たどたどしい、持って回ったような、イエス様の言葉をはぐらかし、自分の思いをストレートにも伝えず、どこか逃げ口上な彼の言葉ですが、イエス様はしっかりとそれを受け止め、今の彼の力のいっぱいいっぱいの所を受け止めて下さいました。

しかし主の群れの世話をするという事、主に従うという事は、逮捕されて拘束されて、連行されるような苦しみが目の前に待っていることなのですが、そして迫害の死を遂げることになるのですが、しかし、その死に方によって神様の栄光があらわされるという事を語られました。イエス様に従い、不法に逮捕され、縛り上げられ、連れて行かれ、殉教の死を遂げるのですが、イエス様にとって死は終わりではなくて、その後に復活されることを思い、その栄光溢れる神様の力によって引き上げられることを信じて私たちは進むことが出来ます。

ペテロにとっては気付かないことだったかもしれませんが、イエス様はペテロがイエス様と同じ思いで、同じ言葉で応答することを待っておられました。それを待って、待って、しかし最後には私たちの思うところにまで退いて、低くなって合わせて愛の宣言を受け入れ

て下さる、忍耐強い、包容力のある主のおことばを今日私たちは深く心に留めたいと思います。そういう主の語りかけがあり、励ましがあ、力付けと養育があ、ついにこのペテロも、「若かった時には、自分で帯をしめて、思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとってからは、自分の手をのぼすことになろう。そして、ほかの人があなたに帯を結びつけ、行きたくない所へ連れて行くであろう」との信仰の成長を見ることとなったという事に目を留めましょう。

「わたしに従ってきなさい」 主の、孤独に耐え、「ああ、なんという不信仰な時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまで、あなたがたに我慢ができませんか。」(マルコ 9:19)とおっしゃったことを思い起こします。

イエス様を信じて、荒波をも静めて下さるお方に心からの信頼と信仰とをもって進ませていただきたいと願います。

マタイ 8:26 するとイエスは彼らに言われた、「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちよ」。それから起きあがって、風と海とおしかりになると、大なぎになった。

8:27 彼らは驚いて言った、「このかたはどういう人なのだろう。風も海も従わせるとは」。

今週も信じて、恐れを捨てて、主の従い通したいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちを離れずに見守り、必要を満たし、恐れを取り除いて、かつ私たちを力強く成長へとお導き下さいます主のご愛に感謝をおささげいたします。自分がこうしたいとの願いや、保身の気持ち、実現の伴わない言葉など、私たちにはいつも弱さが伴いますが、どうか迷える子羊たちのため、私たちを強めてお用い下さい。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン